

〔上原喜代子議員 登壇〕

○12番 上原喜代子さん 一般質問 2 日目の一番手となっております、よろしくお願いたします。今回の名古屋グランパスの受け入れは、観光地南風原町の認知度のアップと今後の展開に望みが持てるチャンスだと大いに期待していました。この新しい取組が、町興しの出発点として地域を巻き込み、そして行政各部署の巻き込みで本町の良さを発信してもらいたいという強い思いで本日の質問に取り上げております。そのような観点から質問いたしますので、よろしくお願いたします。

それでは、通告書にしたがひまして質問をさせていただきます。1. 地域発信力の強化と観光を関連付ける事業のあり方をとということで、(1) 名古屋グランパスキャンプを受け入れましたが、来場者人数はどうであったのでしょうか。(2) 受入態勢は、十分であったでしょうか。観光地として発展させる可能性は見出せるのでしょうか、お伺いします。(3) 受入地としての本町の課題と町興しの起爆剤としての要素は何でしょうか。(4) 今後の機会を考え、取組体制をどう展開していくのでしょうか。(5) 同時開催に南風原物産展がありました。イオン南風原店との提携による巡回バス導入もありましたが、結果はどうだったのでしょうか。(6) 滞在型ツアー等を将来的に計画するのであれば、地域の発信力として独創的な本場の味の見せ方やパフォーマンスの必要性を感じますがどう考えますでしょうか。以上、よろしくお願いたします。

○議長 宮城清政君 教育長。

○教育長 赤嶺正之君 それでは、上原喜代子議員のご質問にお答えいたします。質問事項の1番、地域発信力の強化と観光を関連付ける事業のあり方というご質問に関しまして、教育委員会が(4)までかかわっておりますので、教育委員会から先に答弁をさせていただきます。(1)でございますが、キャンプ期間中で延べ1万人余の来場者がありました。(2)でございますけれども、キャンプの受入態勢については、チーム関係者から芝の仕上がり具合についても満足していただきました。キャンプ地としての環境としても申し分ないというような確認をしておりますので、十分であったと考えております。また、観光地として発展させる可能性についても、(1)のご質問に答弁したとおり、来場者人数などを勘案しましても大きな誘客効果があるというようなことございまして、有望な観光資源になると考えております。(3)でございますけれども、受入地としての本町の課題としまして、来客のための駐車場確保があるかと考えております。休日は、小中の運動場を駐車場として確保できますが、平日は利用できませんのでその対応策としてイオン南風原店の駐車場からバスを運行させて観客の足を確保いたしました。課題といたしまして、その他にまずキャンプ受け入れの経験不足によるわれわれの段取りの不足あるいはまた球団やチームとの交渉の窓口整備、受け入れを生かすためのアクションプラン等々の作

成と周知などが考えられます。また、このように有望な誘客機会を、町興しとして十二分に生かすアクションプランこそが起爆剤になるのではないかと考えております。(4)でございます。取組体制につきましては、今回のようなプロジェクトチーム体制が良いのではないかと考えております。また、もう少し町民を巻き込んだ方法も考える必要があるのではないかと考えております。以上でございます。

○議長 宮城清政君 副町長。

○副町長 国吉真章君 では、引き続き(5)についてお答えします。イオン南風原店との連携による巡回バス導入については、駐車場の確保の面や待ち時間、移動時間もスムーズに行うことができ、高く評価をいただいております。そのようなことから、今回のグランパス受け入れについて物産展との関連でも良い結果を上げることができたと認識しております。(6)についてであります。本町の観光地としての取組は、まだスタートしたばかりで地域の魅力発信において対外的、対内的に見てもまだ情報発信などの取組が不足であると考えています。ご指摘のようなパフォーマンスを発揮することができるよう、町内の事業所や地域住民が観光に対する意識や気持ちを一つのものとするよう働きかけるとともに、スポーツツーリズムの振興に、関係課連携して全庁的に今後も取り組んでまいりたいと思います。

○議長 宮城清政君 12番 上原喜代子議員。

○12番 上原喜代子さん 1万人余の来場者という部分で、これは想定内だったのでしょうか、お伺いします。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 新垣好彦君 上原議員の再質問にお答えいたします。キャンプ地の延べで1万人余ということで教育長からありました。それについては、想定内だったのかということでございますが、2月11日の同じJ1チーム同士のトレーニングマッチにつきましては、だいたい5,000人ぐらい入っただろうということで、これについてはJ1同士の対戦でありますので観客数としては想定しておりました。しかしながら、平日につきましては、予想していたより少なかったかなと認識いたしております。

○議長 宮城清政君 12番 上原喜代子議員。

○12番 上原喜代子さん 試合の時は多かったと、平日は少ないということでありますの

で、それはそうだろうと感じます。やはりそういう試合を間近にすることは滅多にないですから、試合の時に多く集まるのはそうだと思います。そのなかにおいて、受け入れをしたときから準備をする期間、決定したあとの準備期間は十分にあったのでしょうか。どうでしょうか。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 新垣好彦君 再質問にお答えいたします。名古屋グランパスが南風原町でキャンプを行うことの決定から、2月9日からキャンプでございましたので、12月からそのお話がございまして実際予算取りをいたしまして、それにかかる費用の予算調整等はその後から進めておりますので、期間的には十分ではなかったという考え方を持っております。

○議長 宮城清政君 12番 上原喜代子議員。

○12番 上原喜代子さん 予算を組んでという部分で12月の予算からという話でありましたので期間としては十分ではなかったとのただいまの答弁だったのですが、私としては「芝人養成事業」というものがあって、これはキャンプ地になる前提で始まった事業だと思うのです。そのときから体制を組んで、受け入れを想定して事業に取りかかったのかと思ったものですから、それについてはどうなのでしょう。

○議長 宮城清政君 町長。

○町長 城間俊安君 12月からキャンプの話がありましたがしかし、芝人事業を6月に入れたときには、将来においてはキャンプもできるような呼び掛けをしてもいいなという話でした。そして昨年、サッカー協会が設立されましたので、サッカー協会の皆さんと一緒に、芝人事業を入れて将来においてはキャンプの誘致もしていこうとしておりました。これがとんとん拍子に、芝の育成状況も見て、またサッカー協会の皆さんが一丸となって呼び掛けをしたら、名古屋グランパスがぜひ南風原にという脈があるよということがありまして、ラブコールのためにもぜひ11月の最終戦を観戦に行ったほうがいいのではないかということで私たちも参加させてもらいました。そこでお話をしましたら、行きたいということでありましたので、当初は、将来においてはであり、すぐ今年から来ることは想定外でした。町のサッカー協会の皆さん、町民、商工会も一緒になって、全職員体制で取り組んでいこうというかたちになったことをご理解いただきたいと思います。

○議長 宮城清政君 12番 上原喜代子議員。

○12番 上原喜代子さん 相手があることですから、いろいろとあったらうことは想定しておりました。受け入れとして認めてもらったことは大変ありがたいことだと感じております。そして（2）に移るのですが、受入態勢は十分であったかの部分は、準備期間ともかかわってきますし、準備期間はそんなになかったという受取り方をいたしました。受け入れそのものに対しては、画期的な取組だと嬉しく思います。それに伴い、担当課のご苦労は大変だったと理解もいたします。この受け入れをとおし、私としては観光地としての本町の売込み、取組、そして意気込みという部分が、観光としての脚光を浴びるのではないかと、可能性、きっかけを掴むことができるのではないかとそういう思いでこの質問はしたのですが、来ないと分からない部分もありますし、今回の場合は南風原物産展が別の所であったということもありはしたのですが、そういう観光に結びつけるきっかけを見つけるといふ考え方は、受け入れたときに皆さんのなかで共通認識としてあったのでしょうかお伺いします。

○議長 宮城清政君 経済建設部長。

○経済建設部長 真境名元彦君 お答えいたします。キャンプの受け入れが正式に決まった時点で、観光に向けて十分可能性はあると認識しておりました。と申しますのは、他の自治体で同じようなキャンプ誘致をしまして観光面に結び付けている状況を確認しておりましたので、南風原町につきましても同様にこれを起爆剤として観光地としての発展を取り組んでいきたいということから進めております。ただ、いかんせんそのキャンプの日程が決まりましてからキャンプインまでにかなり短期間であったことと、また初めての取組だということとその体制には今回は不十分だと考えておりますけれども、短い期間の態勢にしては結果として良いほうではなかったかと考えております。今後、継続してそのキャンプができるように、また南風原町の観光発展に私どももステップアップできるよう努めてまいりたいと考えております。

○議長 宮城清政君 12番 上原喜代子議員。

○12番 上原喜代子さん 初めての取組で不十分であったと、それは理解します。先ほどから申し上げていますように、南風原物産展が別の所であったというのも大きいのではないかと感じております。2月9日に歓迎式典があつて、そのなかにはマスコミ関係者もたくさんいらっしゃったと思うのですが、私はこのマスコミをどうにか取り込む方法はなかったのかなと感じました。そのマスコミを取り込むことで、観光地として私たちが今からの課題とするものが見つけられるのではないかと思つたものですから、そのなかにおいて会場の設定がとても寂しく感じたのです。もちろん、観光協会もあつて商工会もあつて

南風原物産展が向こうにあってということではあったのですが、せっかくプロの選手が見えるのにこれでいいのかと思ったものですから、会場設定にはカメラを通して画になる部分なかったと、セレモニーを映せても、セレモニー以外の所にカメラがいかなかったのではないかという部分も感じたものですから、そのところもうちょっと取り組めなかったのかと思ったのです。例えば、競技場の中にサッカー選手がいる、外のほうにちょっとした観光協会が立ち上げた土産物とかグランパスのグッズとか、それを 2 カ所だけでやっていたのですよね。そこをもうちょっと、そんなに数は多くなくても賑わわせることができなかつたのかと思ったのですが、それはいかがでしょうか。

○議長 宮城清政君 経済建設部長。

○経済建設部長 真境名元彦君 答えいたします。確かに、結果としましてはそのように会場も少し寂しかったかとは考えておりますけれども、先ほども申し上げましたとおり、初めての取組ということでその状況がまだ十分に把握をしていなかった結果ではなかろうかと考えております。そういった方面も踏まえて、次回からはそのような取組を強化していきたいと考えております。

○議長 宮城清政君 12番 上原喜代子議員。

○12番 上原喜代子さん 初めての取組だったという部分は十分に理解しますが、やはり今後のことを思って私は質問に取り上げておりますので、結果としてそうなりはしたのだけれども、その結果を踏まえて今後どうするのかという部分を思うものです。本町の課題としては何か、起爆剤は何かと質問いたしましたが、これは必ずや次回につながるものだと思っておりますので質問いたします。課題としては駐車場の確保ができなかつたと、そのためにイオン南風原店と提携を組んだという答弁はいただきました。駐車場の課題はいつも議会でも議論されるところで、本当にこれは早急に確保をしなければいけないのではないかと。今は駐車場に関しての整備事業もありますので何とかそれで補える部分もあるかとは感じているのですが、それとは別に、物品の販売とかPR活動という答弁もいただいていますから申し上げます。今、私たちは農産物でいろんな加工品を作る研究をしているところにあります。ですからそのへちま生産日本一ということで私たちのなかで南風原町は言われて、加工するのもいいのですがこの日本一とか拠点産地認定とかそういう部分でもっと大きくPRする必要があったのではないかと思うのです。一括交付金で平成26年度実施計画、平成28年度から平成30年度までの計画があって、ビューリーズのダンスユニットの活動もあって、それはそれでいいのですけれども、今後は受け入れたその場で、陸上競技場のその場で南風原町は日本一生産を誇りにしているというPRの仕方、そしてその現場で現物そのものが試食と言うか販売できる方法は、この先考えられるでしょうかお伺

いたします。

○議長 宮城清政君 町長。

○町長 城間俊安君 トレーニングキャンプのとき、お客さんがどれぐらい見えるのか。そのときに私たち行政においては、いろいろな食べ物、物品も販売しながらやっていかなければ祭りは盛り上がりがないのではないかと考えております。行政としてもやっていく姿勢を持っておりますので、問題は商工会の皆さん方が私たちも参加させてくれと言うような意気込みが大事ではないかと思えます。行政からこういう物品も出してくれとやると、人が来なかったらその責任は、行政に力がないのではないかとなる、そうではなくて、むしろ事業者の皆さん方が私たちもこういう食べ物、物品販売もやりたいと、一緒に参加させてくれというこのムードが大事ではないかと思えます。そうすることによって、お客さんに対しておもてなしもできるのではないかと考えております。提供はしながら、やはり民間の皆さん方から参入させてくれという声を上げることが、こういう相乗効果をもたらすことが一番大事ではないかと考えております。そういう意味で、今後気を付けていきたいと考えております。

○議長 宮城清政君 12番 上原喜代子議員。

○12番 上原喜代子さん 行政が取り仕切るというわけではなくて、事業所もそれに対して要望があればというただいまの答弁だったと思うのですが、もちろんその事業所も、私の知り合いの生産農家はいろんな部分で自分の農産物をどうやって売ろうかと研究している方もいます。ですから、そこを捉えても、今回は本当に分散したことが一番の原因だと思うのですけれども、物産展に行っているからそこまでは手が回らなかったのですが場所が確保できれば自分もやったのにねという話です。農産物はヘチマだけではなく、加工の段階にあります。また、この加工が日本一だと銘打ったヘチマですので、南風原町らしさを出すならソウルフード、南風原町では昔から食べていた昔からの食べ物ですから、そんなに手をかけなくても美味しく食べられることは誰もが認知していると思います。沖縄全体で認知していると思うのですが、県外の方は垢すりだと思っている人もなかにはいるのですよね。だからこれから先、誘致を想定したときには、やはりこれは栄養分の高い食べ物だという発信の仕方、そこで試食もさせながら販売もするというようにもっていかなければ、せっかくの生産日本一がソウルフードも作りきれないということになってしまうのではないかと考えるものですから、このような質問をしているのですが、やはり試食させるということは体験させることと一緒にです。体験学習という言葉がよく聞えるのですけれども、県外の人たちを取り込むためには試食させること。私はこの事業所に補助をしないというものではないのですが、ただ、ある程度試食させる部分だけでも補助を付けて激励

するとかそういうことができないものか、いかがでしょうか。

○議長 宮城清政君 経済建設部長。

○経済建設部長 真境名元彦君 お答えいたします。議員のおっしゃることもひとつの手法ではないかと考えております。先ほどから申し上げておりますけれども、初めての取組ということでいろんな検討も今回の第1回目を踏まえて2回目、3回目と徐々にアップをしながら、その集客に見合う出店関係、先ほど町長からもありましたけれども先んじて出店だけを多めにしてしまうと集客に合わない場合、それには営業関係もありますので集客に対するバランスも必要かと思えます。今後もそういうキャンプに力を入れるということで、陸上競技場の芝の育成についても本年度同様に継続していくよう計画を立てておりますので、誘致も1回目、2回目、3回目と継続していくうちにそれなり町としても受入態勢を強化できるものと考えておりますので、一步一步進むよう取り組んでまいりたいと思えます。

○議長 宮城清政君 12番 上原喜代子議員。

○12番 上原喜代子さん 今後のことだから、初めてだからということは私も理解するのですが、今後につながるためにもやはりこのところは押さえて欲しいという質問ですので、ぜひ今後につなげる体制づくりに取り組んでいただきたいと考えております。やはり、見て感じたことは、名古屋グランパスが来て、先ほどもありました集客数について皆さんも人が集まっていることを承知しているところではあるのですが、しかしその場で弁当も買えない、軽食も取れない、南風原町の実情というのは、もったいないのではないかととても思うのです。集客数に合わなければどうするかの話もあったのですが、そのキャンプが終わってすぐあとに琉大をはじめとする県外の学生たちが200名余集まって陸上の合同練習をしていたのです。この人たちは各々弁当をもってきたり、ダンボールに食べ物を詰めてきたりという様子が見られたものですから、やはりこの場で何も無かったのかなと、なんで手ぶらで帰すのかねと、これは皆さんも思っているのではないかと思うのですが、そここのところをどうしたらいいのかがありました。人が集まっているのに、うちの南風原町には何の収益もないのかを考えたときは、やはりどうにか対策を立てなければいけないのではないかと思うのですけれども、どうですか。

○議長 宮城清政君 町長。

○町長 城間俊安君 先ほどから担当の皆さん方がお答えしております、これだけのお客さんが来るのであれば、これを大事にしたい、また少しでも滞在させたい、そのためには

食べ物がなければいけない。しかし、行政が食べ物屋を提供するわけにはいかないし、町の商工会が中心になった事業者の皆さんがたくさんおられますので、その人たちが私たちにもこの場所に場を提供してくれというような言葉を商工会から、事業者から町に対して申入れをするのが大事ではないか。行政から、ブースを用意してあるからここに来てくれとするのではなくて、場所を提供してくれという、また町も提供する場所をひろめておりますので、ラブコールしております。ぜひ食べ物屋を参加させてくれという声が上がることが一番大事です。そのまま腹をすかせたまま帰すのではなくて、練習も見て、試合も見て、食べ物を食べてお腹もいっぱいになって帰るような環境を作るには、問題は商工会、事業をなさっている方々から私たちも参加させてくれという思い、こういうムードを盛り上げていくよう私たちも手助けをしてみたいと思います。議員にもぜひ、人がいっぱいいるから弁当屋、食べ物屋、店を出したらどうかという面で手助けをお願いしたいと思っております。

○議長 宮城清政君 12番 上原喜代子議員。

○12番 上原喜代子さん 店を出すようにというお話だったのですが、南風原町は土地がないですね。だからその部分で店を出すのにも大変なところがあるとは思いますが、私はこの取組が全部課題ばかりだったとは決して思いません。商工会も連携しながらと先ほどの答弁だったのですが、そこに関してはやはり皆さんもこれだけの集客があったのだよと、行政からの懇談会とかいろんな場面があると思いますので、今回は物産展があつて会場が手薄になったこともあるのだけれども、事業所としてはどう考えるかと皆さん方からも提案していく必要があると思うのです。事業所の皆が皆、サッカーを見に行つたわけでもないだろうし、知らない人は知らないと思いますので、やはりそういう場を作つていただいて、それは各々の考え方だから商業につないでいく部分を見出す方は見出しますので、そういうものがあるのだよという提案はしていただきたいと思っております。

5番目に移りたいと思いますが、イオン南風原店と提携してやつたときに、南風原物産展については私たちの所属委員会からも留意事項があつてもっと調査研究したほうがいいのではないかとあつたのですが、別にそれはそれとして物産展に参加した生産農家からは大変良かったと、売上が上々だったと喜びの声も聞かれています。その成果としては、試食をあげています。試食させたことが良かったのではないかと、そういうふうに努力している方もいますので、こういう人たちを巻き込んで、次回からはその場でなんとか展開できるように、あまり分散せずに。分散しないからたくさんのお店をもつて来たほうがいいのかといえば、あの場所ですからそんなにたくさんはもつて来ることはできないと思うのですが、農産物を加工したものを試食もさせながら販売もできる力のある人たちを、情報提供してぜひ次回からはつなげていただきたいと思っております。お伺いしたいのは、分散して良かったと、もちろん駐車場の件がありますからそのことに関しては良かったという

ことなのですが、分散したことは物品販売とかそういうことに関して全体的に良かったと思いますか。

○議長 宮城清政君 経済建設部長。

○経済建設部長 真境名元彦君 答えいたします。物産展そのものは町が運営しているものではなく、実行委員会方式で行っているものですから、その場所の選定など私どもがここがいい、あそこがいいと直接申し上げられないものです。また当初の物産展につきましては、別の日程で定められておりましたけれども、グランパスのキャンペーンが決まりましたから相乗効果を高めるためにと敢えてその日にぶつけております。それで陸上競技場に物産展を合同で一緒にやればなお効果があるとは考えますけれども、物産展は基本的に場内放送やいろんなステージ関係もございます。キャンプにつきましては、音を出さなくてくれ、火を使わないでくれというそういった協議もありましたので、そういった物産展関係が同時にはできないということがございました。物品関係についても、当初予定はしておりますけれども、集客がどの程度になるか読めないこともありまして、物産展に手が取られてここに出店ができなかったということではございません。両方に出しているところもございまして、手探りの状態でこの程度というのが今回の内容ではなかったかと思えます。これから一年近くの期間もあることですので、今後は長期的に次回に向けた取組を行っていきたいと思えます。また、先ほどからの議員ご提案のことも大きな検討課題として取り組んでいきたいと考えております。

○議長 宮城清政君 12番 上原喜代子議員。

○12番 上原喜代子さん 相手方からいろんな制約があったという答弁だったと思うのですが、火を使わないという部分もお弁当にすれば火も使わなくていいかなという部分もあって、これも事業所の皆さんがどういう方法でという情報さえ出していただければいろいろ工夫できることだったろうと捉えました。ああいうふうにして寂しい雰囲気ややるより、担当課はここだからということは抜きにして、もう少し方法は考えられたのではないかと思ったのは、野菜摂取を拡大しようと健康保健課でラッピングされたキャンピングカーがありますよね。別にこの事業のために使うという趣旨ではないのですが、でも野菜があるからそういう部分も発想ができるのであって、うちの南風原町にこんないろんな野菜があるから皆さん摂取しましょうと、健康のためにも摂取しましょうという健康に関する事業だと理解はしているのですけれども、このキャンピングカーの1台でも、私の発想がおかしいのかどうなのかよく分かりませんが、その寂しい雰囲気のある場所においてスターフルーツの栄養効果などを大きく描いて、スポーツ選手にとってこのスターフルーツは大変効能がいいのだと、水分補給の部分でとても良いのだという売り込み方で、健康保健課

は栄養価の分析を掲示したり、スターフルーツを丸ごと丸かじり美味しいのだという売り方もあったのにと考えたものです。なぜそれをやらなかったという部分では、準備期間がなかったからとおっしゃるから、言うことはできないのですが、やはり生産日本一であるのであればそれをもっと大いに活用して、選手にとってもビタミンCも豊富だしリンゴよりも栄養があるのだという説明の仕方、そしてスターフルーツを選手に食べてもらう方法もあったのにと考えたものです。これは次回につなげていただきたいと思います。テレビを意識して、選手が一口でも食すれば、丸かじりすれば、このスターフルーツはもっと脚光を浴びていくのではないかと思うものですから、加工だけではなくてそのもの自体に魅力があることをぜひ考えていただきたいと思います。相手方もあり取組が二転三転したと担当課もおっしゃっていましたから、そこまで気も回らないし目も行き届かなかったという部分はあるのですが、でも将来的に農産物日本一とか拠点産地認定農産物に脚光を当てるためにも、将来的にはふるさと納税まで推進していける状態になってくれたらと思うものです。加工品も大事です。大事にしながら、その現物もやはりセットとして、ふるさと納税へもっていったらと思うものです。JAのくがに市場もできることだし、そこも提携したら可能性は見つけられるのではないかと考えているものですから、ぜひそうしてもらいたいと思います。質問は、まちづくりできたものですから、納税まで話が飛ぶのですが、宮崎県都城市では、ふるさと納税の申し込み件数が2万1,336件で納税額4億円、長崎県平戸市が申し込み件数3万5,487件で納税額は14億円と発表されております。私たちも着目して、将来的にはそこまでいったらと思うものですから、担当はここだからというのはなくしてその部分を見つけ出して欲しいということで質問をいたしております。最後に総務部長、そこまでいきましょう。よろしくお願いします。

○議長 宮城清政君 総務部長。

○総務部長 新垣吉紀君 振られてしまいましたので。ふるさと納税ですね、確かにポイント制のようでありまして、いくら以上は何ポイント、例えばこの町の特産の干物がA、B、C選べます。たぶんあれは納税額とさほど変わらない金額で漁業組合、農業協同組合等と連携して、ひとつの商業の媒体としてやっているのではないかというふしもあります。先ほど来、議員のご質問を伺っており、われわれはそういったステージを作りますので、どんどんビジネスチャンスを見つけて展開してくれというのが町長がおっしゃっていることです。ふるさと納税にしてもそういったことがございますので、われわれはそういうビジネスチャンスを作ります、乗ってくださいというのはやはり協働ではないかというのもございます。ご提案が様々ありましたけれども、トータルでわれわれは公の立場です、皆さんはここをどうぞ活用してくださいというようなスタンスで地域は活性化していくものだと考えております。今後ともいろいろご提言いただいて、われわれもそういうビジネスチャンスを作りますので、ぜひ一緒に南風原を発展させていきたいと思

います。答弁になったかは分からないのですが、以上です。

○議長 宮城清政君 12番 上原喜代子議員。

○12番 上原喜代子さん 質問している私もどこに振ったらいいのか分からない状態ではあったのですが。せっかく人が集まったのに、手ぶらで帰したことが悔しいということがあってこの流れにはなりましたけれども、ビジネスチャンスだという部分の情報提供です。観光協会もそうなのですが商工会、何と云うのでしょうか、物を作るときに皆が手を出しやすいような状況。これはカボチャサブレというものがあって、これに6枚入っていますが、火がおこせないとかいう会場の制約があるのであれば、南風原物産展で販売していたかどうかは分かりませんが、これはワンコイン500円なのです。腹持ちもすごくいいのです。だからこういうものを展示するのほひとつの方法ではなかったかと思うものですから、本当にどうにかどこかでチャンスが、この大勢の人の中で事業として起こせるような情報提供をお願いして、提案で終わりますが次回には何か一つ目出しができるようお願いして終わります。ありがとうございました。